

組合スポットライト

しらたかノラの会企業組合

- 所在地：西置賜郡白鷹町鮎貝3878 ●TEL：023-653-6146
- URL <http://shiratakanora.web.fc2.com/> ●設立：平成23年10月 ●出資金：2,700千円
- 組合員数：9 ●主な事業：農産物の生産加工及び仕入れ販売事業、農作業等受託事業



しらたかノラの会メンバー

しらたかノラの会は、平成18年の7月から20～60歳代の男女11人の農産加工グループとして活動を始めた。

当時、そのうち6人が白鷹町の出身。“農家の長男”として生まれた生粋の百姓もいれば、Uターン就農した者もいる。残りの5人は県外からのIターン組で福島県や東京都、静岡県、一番遠くは宮崎県となっている。

年齢や性別、経歴も全く違う11人が、それぞれ違うきっかけで有機農業に向い、偶然が重なって白鷹町で出会い、農業で生きられる拠点を求めて集まった。

組合名の“ノラ”の由来は、野良仕事、野良猫、ヘンリック・イブセンの戯曲『人形の家』の女主人公の名前などなど。

組合では出来る限り農薬や化学肥料を使わずに農産物を作り、それを原料に添加物や化学調味料を使わずに、当地で昔から作られてきた漬物や餅、オリジナルの惣菜や菓子など、様々な加工品を作り、販売している。いずれも自分達が食べたいと思って作り、普段食べている野菜や加工品である。白鷹の恵みを多くの人と分かち合えるように、一つひとつの品物に気持ちを込めて作っている。

今年、しらたかノラの会企業組合は、前身の任意グループから数えて10周年を迎えた。

9月3日(土)、白鷹町パレス松風において「10周年記念の集い」が開催され、60余名が参加した。パネルディスカッションでは「食と農と地域の未来～自給と循環を紡ぐ～」をテーマにパネリストと参加者による議論が交わされた。

懇親会では、ノラの会10年間の歩みと組合員の紹介が行われた後、出席者全員からのお祝いの言葉をいただき、和やかに歓談が行われた。

9月4日(日)の2日目は白鷹町文化交流センターあゆ～むにおいて「のらの市」を開催し、組合や地域の生産者が作った加工品や新鮮な野菜の直売会が行われ多くのお客が訪れた。

ノラの会10周年を振り返って

10年を振り返ってみると、あっという間の10年間と言えるし、そんな感じがするのに、いろんなことがありすぎた10年間のような気がする。

3年目までは右肩上がり。伸びるしかないところで勢いに乗っていった。平成20年のリーマンショックで、最初は世間が騒ぐほどの影響はなかったが、あとあと少しずつ効いてきた。その後、平成23年の東日本大震災と原発の放射能汚染。これは精神的、経済的にダブルパンチで襲ってきた。平成25、26年の白鷹豪雨災害。そして、今年の熊本地震。

10年1期を終えて、これから2期目に入る。農業問題、山林問題、地域の問題と山積する中で、ノラの会がやってきたことを若い人たちに、伝えるような事業展開を視野に入れていく時期にきているような気がする。わたしたちが食の技、生産の技を伝承してきたように、その技を後世に伝えていきたい。

大内 文雄



直売会の様子